

SSKS

2023. 5月号

No. 550

# せんかわだより

～あるがままに あたりまえに～



## 令和5年度 入所式



【社会人として、新たな春を迎えました】

令和5年4月3日、武蔵野千川福祉会は新たな利用者を2名迎えました。  
コロナ禍でも多くを学び、在学中より当法人の事業所で実習を積み重ねてきました。  
この度、晴れて社会人としてのスタートラインに立ちました。

入所式では家族、来賓、先輩利用者、職員に見守られて、緊張の面持ちで式に臨みました。  
理事長からは辞令を、先輩利用者からは花束の贈呈を受けました。

さあ、ここから新たな生活がはじまります。一步一步前に進みましょう。



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>



## 新たなステージへの挑戦

～卒業後のイメージを持って～

武蔵野千川福祉会では、卒業後の「はたらく・くらす」の見通しを持つことができるように、高校在学中に行う学校主催の現場実習や、法人独自のとりくみである夏のしごと体験の機会を大切にしています。

「はたらく」ってどのようなことをするの？どのような場所？自分にもできるの？など。さまざまなイメージを具体的に持つことができるように、先輩利用者と一緒に、同じ場所で同じ作業を進めていきます。今回は、B型事業所でのとりくみを中心にお伝えします。

### 卒業後のイメージを持つ大切さ

武蔵野千川福祉会では、現場実習と夏のしごと体験をもとに、卒業後のイメージを持つことができるようにしています。夏のしごと体験は、学校の夏休み期間に行います。高校2年生にとっては、ほとんどの人が初めてのしごと体験です。まずは、はたらく場の雰囲気を感じてもらいます。そして、できる作業を一つずつやってみます。初めての場所で「できた」という成功体験をすることは、とても大きな一歩です。このように、夏のしごと体験を通して、はたらくことへのイメージを持つことができるようにしています。

夏のしごと体験の次は、実習です。実習は高校2年生の後期実習1回、高校3年生は前期実習と後期実習の2回です。この実習を通して、卒業後の進路を選択していきます。より具体的に「はたらく」をイメージできるように、挨拶や報告、1日の予定に合わせた作業にとりくんでもらうようにしています。こうして、卒業後の生活を体験してもらい、一人ひとりの力に合ったはたらく場所で、社会人1年目をスタートできるようにしています。

### 「僕にもできるんだ！」

ワークイン関前に入所したAさんは夏のしごと体験、3年生の後期実習を積み重ねてきました。実習では学校とは違い、朝から夕方まで利用者全員が働いています。慣れない環境の中、事業所の先輩利用者に追いつこうと頑張るとりくもうとする姿が見られました。

自分から率先して気持ちのよい挨拶ができますが、作業では自信がなく、作業手順の戸惑いや間違いに気がついて自分からうまく報告することができませんでした。しかし、わからないことや間違いに気がついたらすぐに報告してほしいということを、その場で繰り返し伝えていくうちに、自ら報告できるようになってきました。

ここで大切なことは、その場ですぐに評価をすることです。できたことを感じ、喜びを得ることで「僕にもできるんだ！」と気づくことができます。そして、自己肯定感を高めることで自信につながっていく



【一緒に運搬をします】

のだと考えています。そのためには、できたことをしっかり言葉でほめる、認める、共感することが重要であると考えています。さらにAさんは、作業の手順がわかってくると資材を自主的に準備して整える、できた資材を次の人に渡すなど気がつくようになってきました。

4月、新社会人になったAさんからは、学生の時とはまた違う成長した姿が見られています。事業所に資材が入荷すると、自ら進んで他の利用者と一緒に運搬を行うなど、『はたらく』意識が芽生えていることを感じ取ることができます。成果だけではなくその過程、挑戦した姿勢や頑張った努力したことに目を向けて認めていくことで、新しいことに挑戦する気持ちや『はたらく』ことへの意欲を高めることができるよう、Aさんのこれからを支えていきたいと思っています。

## 一步一步 着実に

武蔵境ワーキングセンターでの仕事は、封入封緘作業を主として、機械作業や運搬など多岐にわたります。入所式の翌日から働き始めたBさんにとっては、高校3年生の10月以来の仕事です。久しぶりということもあり、初めは緊張している様子も見られました。しかし、すぐに武蔵境ワーキングセンターの環境に慣れ、今ではさまざまな作業に挑戦しようと意欲的にとりくんでいます。

封緘機を操作していた先輩利用者の様子を見て、「この機械の名前はなんですか？」と質問がありました。「機械作業をやってみますか？」と聞くと、「いや〜、無理ですよ。」との返答。「うまくできなくてもよいので、挑戦してみましよう！」と声をかけました。最初は慎重な手つきでしたが、職員と確認をしながら封緘機にとりくみました。このような姿は、本人の努力はもちろんですが、実習などの経験が活かされていると感じます。

給料をもらったら、家族で旅行をしたいというBさん。休憩時間に、学生時代最後の関西旅行の写真を、先輩利用者や職員に見せてくれました。社会人として初めての給料をどのように使うのか。このような思いも大切に、はたらくことを支援していかなければならないと考えています。

「一步一步 着実に」入所式の際、武蔵野東高等専修学校、渡辺校長からいただいた言葉です。社会人としてスタートを切ったばかりのBさんですが、これからさまざまなことに挑戦していきなさいと思います。わたしたち職員も、Bさんの挑戦する思いを実現できるように支援していきます。



【封緘機に挑戦しました！】

## はたらくことを継続していくために

社会の中ではたらくという、新たなステージにむかって一步を踏み出したAさんとBさん。その先は、はたらくことを継続できるようにしていくことが大切であると考えています。そのために、わたしたち職員は、事業所の一員・社会の一員とすることができる役割を担ってもらい、はたらく達成感を得てほしいと思っています。そして、はたらく楽しさも同様に感じるように、一人ひとりのできることが増える支援をしていきたいと思っています。

（文責：川島、亀村、佐藤）

## ご寄付をいただきありがとうございます（令和4年度）

新堂 薫様 正田 健三様 東京第三友の会様（順不同）  
（令和5年2月～3月）

### きょうさん第46次 国会請願署名・募金活動 ご報告

◇ 署名・・・・・・・・・714筆

◇ 募金・・・・87,000円

皆さまのあたたかいご支援、ご協力ありがとうございました。  
いただいた署名と募金はきょうさんに提出し、国会に届けます。  
皆さまの声、私たちの声が多くの方に届き、より良い社会になりますように！！



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会  
<http://www.musashino-senkawa.com>

< 生活介護事業所 >

◆ 千川作業所	〒180-0011	武蔵野市八幡町4-28-13	TEL 0422(55)3826
◆ ワークイン中町	〒180-0006	武蔵野市中町2-6-5	TEL 0422(27)7519
◆ ななほしワークス	〒180-0022	武蔵野市境2-11-3-101	TEL 0422(38)8083
< 就労支援事業所 >			
◆ チャレンジャー	〒180-0023	武蔵野市境南町4-20-5	TEL 0422(30)3010
◆ ワークイン関前	〒180-0014	武蔵野市関前3-41-16	TEL 0422(37)6266
◆ 武蔵境ワーキングセンター	〒180-0023	武蔵野市境南町3-10-1	TEL 0422(33)1708
◆ 八幡作業所	〒180-0011	武蔵野市八幡町4-5-5	TEL 0422(27)8390
◆ 武蔵野市障害者就労支援センターあいる	〒180-0023	武蔵野市境南町2-5-8-102	TEL 0422(26)1855

< ショートステイ/ミドルステイ/自立生活体験事業 >

◆ 桜はうす・今泉	〒180-0021	武蔵野市桜堤1-5-1	TEL 0422(54)1187
◆ 井の頭はうす	〒180-0003	武蔵野市吉祥寺南町4-21-17	TEL 0422(46)7707

< 児童発達支援事業 > < 放課後児童健全育成事業 > < 放課後等デイサービス事業 >

◆ 千川おひさま幼児教室	〒180-0011	武蔵野市八幡町4-28-13	TEL 0422(51)4008
◆ 千川さくらっこクラブ			
◆ 千川さくらんぼクラブ	〒180-0011	武蔵野市八幡町2-5-3 北ホール1階	TEL 080(5458)9175

< 共同生活援助（グループホーム） >

◆ 天の薔寮	◆ 第一桜寮	◆ 第二桜寮	◆ 境南葵寮	◆ 吉祥寺泉寮	◆ 関前上水寮
◆ 相談支援事業所 せんかわ					

< 発行人 > 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 東京都世田谷区御裕3-1-17-102 TEL 03(6277)9611

< 編集人 > 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 東京都武蔵野市境南町4-20-5 TEL 0422(30)0022 定価 50円